

# DALIAN 大連 2018 Whenever 9

FEATURE

## 大连と日本語教育 学習者は“日本”をどう捉えているのか

大连的日语教育——日语学习者怎样了解日本

COVER STORY

### 神戸学院大学心理学部 講師 毛新华 氏

神户学院大学心理学部讲师 毛新华先生

REGULAR

リレーエッセイ  
中村さんと桑先生の中国の法律

新闻短讯/中村先生和桑律师的中国法律

COVER

今月の表紙:  
写真は歹街の風景  
(撮影:文文)

照片是歹街风景  
(摄影:文文)

情報・広告の受付  
**8230-9668**  
**8230-7255**

Whenever大连の微信



日本語

中国語



## COVER STORY

# たしかな「相互理解」と「文化適応」を 「対面」で磨かれるコミュニケーション力！



神戸学院大学心理学部 講師

**毛 新華氏**  
(Mao xinhua)

毛 新華 (Mao xinhua)

神戸学院大学心理学部 講師。

1997年大连大学卒業、日本に留学。2008年大阪大学博士(人間科学)。大阪大学助教を経て、現職。一貫して、「異文化適応の促進における文化的社会的スキル・トレーニング」について研究を続ける。

神戸学院大学心理学部の毛新華博士は大連出身。日中の異文化コミュニケーションをテーマに精力的な研究活動を続ける新進気鋭の心理学者だ。毛博士は6月22日に大連に住む日本人ビジネスパーソンらを対象に講演会を実施した。テーマは「日本人の中国文化適応に向けて」。その講演内容を振り返りつつ、異文化社会における円滑な人間関係について毛博士に考えを語っていただいた。

## COVER STORY



神戸学院大学心理学部キャラクター  
マナピー

毛博士は日本を本拠地に研究活動をされているのですね。

私は大連生まれ大連育ちで、21歳からの11年間、大阪で留学生生活を送りました。大阪大学で4年間助教を勤めるのち、現在は神戸学院大学で講師をしています。

神戸学院大学の心理学部についてお聞かせください。

神戸学院大学は2018年4月に、それまでの人文科学部人間心理学科を改組して、10番目の学部として心理学部を開設しました。臨床心理学、発達心理学、認知心理学、医療心理学、社会心理学などを専門とする専任教員21名が在籍し、新たにスタートする国家資格である公認心理師の育成を目指しています。

心理学部では、感情や認知、発達といった従来の心理学的科目に加えて、人の生物学的側面や社会文化的側面など多面的な観点からのアプローチを図っています。「こころ」を総合的に理解できる人材育成を目指しています。

このような人材育成を実現するために、授業は座学にとどまらず、学生に豊富な実験実習やフィールドワークの機会を設けています。産業、福祉、医療、教育、司法の各分野の学外実習なども実施し、幅広い知識やスキルを修得してもらいます。また、心理学部は、神戸学院大学という総合大学の利点を生かした、学生に多彩な科目の学修を経験させることにより、多様な社会で活躍できる人材を育成します。何よりも、国家資格である公認心理師のカリキュラムに対応しているため、学生が公認心理師の受験に必要な科目を学ぶことができます。

今回、大連でセミナーを開催されましたが、どんな経緯があつたのでしょうか。

私の在籍している神戸学院大学心理学部は「社会に生きる心理学」をコンセプトに設計され、心理学の知見をいかに社会に還元し、人々に生活、仕事などに役立たせることができるかということを強く意識しています。そのため、心理学部では、社会貢献・地域連携という事業を立ち上げました。この事業の一環として、私の専門である社会心理学・文化心理学の観点から、心理学における異文化適応の知見を是非とも在中国邦人の中国文化適応に生かしたいとの思いがあり、大連でのセミナー開催に至りました。

では、大連ルーキー会と協力するに至った経緯をお聞かせください。

在瀋陽総領事館大連領事事務所の皆様と相談した上、大連在住の日本人が幅広く参加している大連ルーキー会をご紹介いただきました。同会の多くが協力を得て、今回セミナーを無



大阪で培った自身の日本語を「グローバル関西弁」と語る毛博士

事開催することができました。同会幹事の片島辰一郎様をはじめ皆さまには、事前準備から当日の運営までに、数え切れないほどお世話になりました。

開催まではさまざまなご苦労があったようですね。

セミナー開催週の月曜日に、大阪で大きな地震がありました。私自身が大連に行けるかという心配をしていただけに、予定通りに開催することができたことに、まずホッとしました。セミナー当日は、多くの参加者がたいへんお忙しい中、会場に集まってくれたり、そして、こちらが用意したプログラムに熱心に取り組んでくださいました。参加者の皆様から「役に立った」との感想を多く頂き、心から開催して良かったと思っています。

今回のセミナーには、大連にいる日本人の方だけではなく、日系の企業等に勤めている中国人の方からの参加もいただきました。セミナーのプログラム自体は異文化適応に役に立つものであるため、中国人の方々にとっても自身の文化を意識するきっかけともなっているかと思います。

セミナー開催の冒頭では、大連領事事務所の牛田貴広副領事や大連ルーキー会渡辺正登会長がご挨拶の中で、「セミナーをきっかけに、是非とも日中両国の国民同士が理解を深めてほしい」と述べられました。このことは、まさにセミナーの講師を務めた私から多くの皆さんに伝えたいメッセージでもあります。

貴大学心理学部がコンセプトとしている「社会に生きる心理学」について、もう少し詳しくお教えいただけませんか。

「心理学」といえば、多くの人がすぐに思いつくのはカウンセリングでしょう。しかし心理学は皆さんが思っている以上に取り扱う範囲が広いのです。個々人の心理過程、他者との対人関係、さらに多くの人々が集まる集団、社会、国、文化という集合体における、人々の認知、感情、行動の全てを扱っています。「社会に生きる心理学」は、このような広範囲にわたって研究

をしている学問の「成果を人々に還元する」ところに価値を置いています。大学にとっては、心理学を専門とする人材を育成して、将来それぞれの領域で活躍してもらうことが成果の社会的還元の一つであります。

一方、我々教員は自分自身の研究成果を講演会やセミナーなど、心理教育などの活動を通して、心理学の知見を人々の実際の生活に役立たせることも成果の還元であります。

**毛博士の研究テーマのひとつに「社会的スキル」がありますが、これはどういったものでしょうか。**

誤解のない相互理解を築き、相手から好意的な反応を引きだし、不快な反応を避け、建設的な対人関係を築くためのコミュニケーションの技術を「社会的スキル」と呼んでいます。

これは生まれつきではなく、後天的な習得によって身につくものですので、学習・実践によって不足しているスキルを補うことができます。これにより、異文化間での文化摩擦を避けることができます。

**毛博士自身が体験した文化摩擦についてのエピソードはありますか。**

日本人の社会的スキルとして挙げられるのは「曖昧さへの耐性の強さ」です。たとえば、日本に来たばかりのころ友人を食事に誘ったとき、「考えておくよ」と言われ、私のほうは辛抱強く返事を待っていたのですが、いつまでたっても進展がありません。それが婉曲な断り方だと後になって知るまで、しばらく時間がかかりました(笑)。

言葉そのものの意味と、伝えようとする意図には差異があります。明文化されていない暗黙のルールが存在していること、言葉の裏にある意図が存在するのが日本人の間で行われるコミュニケーションの特徴なのではないかと思っています。

もう一つ、「中国人は対人距離（パーソナルスペース）が近い」と感じる日本人の方は少なくないのではないでしょうか。

セミナーでも一つの事例をお話しいたしました。日本人の共同研究者と話し合う際に、自分の椅子を彼の近くに近づけたところ彼が椅子を離したのです。「あれ、おかしいな」と思い、もう一度椅子を近づけてみるけれど、やはり彼はまた距離を取ろうとする。そんなことを繰り返し、初めて「物理的に適切だと感じる距離感」が日本人と中国人では異なることに気づきました。

**毛博士自身は日本での異文化適応の過程で、失敗や挫折を感じることはなかったのでしょうか。**

もちろん数えきれないくらいの失敗もしています。でも、それこそが文化適応の醍醐味なのではないでしょうか。失敗したり笑われたりすることがあっても、そういう経験を重ねたからこそ私の研究テーマに辿り着きました。



セミナーで講演する毛博士



セミナー後の懇親会で「大連ルーキー会」の一員となった毛博士

**「社会的スキル」は年齢、世代による違いはあるのでしょうか。**

日本人において言えば、先ほど申し上げた「曖昧さ」への耐性が、年齢が上がるほど強く若いほど弱いという傾向があります。これは経験の差であり、社会的スキルが後天的なものであることを表しています。

**これから中国文化に適応していくこうとしている日本人の方にメッセージがあれば、お願ひします。**

どんな文化に身を置くとしても、まず大切なのは「いかに楽しく過ごせるか」ということです。そのために、まず自分を知り、そして相手を知る。これが文化適応の第一歩です。無理に相手の文化に合わせるということではありません。

そして心理学では、コミュニケーションは「対面」であることが前提です。今はインターネットやツールが進歩し、文字でのコミュニケーションが重視されがちですが、これはあくまで不完全なコミュニケーションであることを忘れてはいけません。

そしてコミュニケーション力は「対面」で鍛えることができます。実際に接してみて、身をもって経験したことが本当のことですから、知識を身に着けるだけではなく、実践するよう心がけていけば、望ましい対人関係が築いていくと思います。

毛新华博士是土生土长的大连人，现在供职于神户学院大学心理学院。他是一位一直以日中跨文化沟通为研究课题的新锐心理学专家。6月22日，毛博士回到大连，以驻连的日本商务人士为对象，举办一次演讲会。主题是「日本人的中国文化适应」，回顾演讲内容，毛博士对适应不同文化及社会环境时的如何去构建顺畅的人际关系阐述了他的观点。